

科目名	時事経済入門	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群		
			経済学科	□ 必修 ■ 選択	
			学科	□ 必修 □ 選択	
英文表記	Introduction to Current Economy	開講年次	■ 1 年 □ 2 年 □ 3 年 □ 4 年		
		開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中		
ふりがな	にしまき じょうじ	実務家教員担当科目		修得単位	2 単位
担当者名	西巻 丈児	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用		
授業のテーマ	日本経済新聞の紙面から、国内外の経済に関する時事問題について読み解いていき、さまざまな経済問題の本質を理解することにより、世界で生じている諸問題に的確な判断をくだすことができるようになる。				
到達目標	・ 日本経済新聞の記事を理解できる。 ・ 経済を取り扱ったジャーナル雑誌の記事を理解できる。 ・ 経済の時事問題について、自分なりの意見を表明できる。				
授業概要	日本経済新聞の国内外の経済問題に関する記事をもとに、発表担当の学生が受講生に対し解説プレゼンテーションを行い、その後質疑応答を交わす。 各回の担当に関しては、発表者だけではなく、質問者も予め決められる。また、その他の受講者も質疑応答に積極的に参加しなければならないという形式で授業が展開される。				
授業計画					
第 1 回	イントロダクション（授業の進め方、および発表事例の紹介）				
第 2 回	日本経済新聞の記事発表① 4 名				
第 3 回	日本経済新聞の記事発表② 4 名				
第 4 回	日本経済新聞の記事発表③ 4 名				
第 5 回	日本経済新聞の記事発表④ 4 名				
第 6 回	日本経済新聞の記事発表⑤ 4 名				
第 7 回	日本経済新聞の記事発表⑥ 4 名				
第 8 回	日本経済新聞の記事発表⑦ 4 名				
第 9 回	日本経済新聞の記事発表⑧ 4 名				
第 10 回	日本経済新聞の記事発表⑨ 4 名				
第 11 回	日本経済新聞の記事発表⑩ 4 名				
第 12 回	日本経済新聞の記事発表⑪ 4 名				
第 13 回	日本経済新聞の記事発表⑫ 4 名				
第 14 回	日本経済新聞の記事発表⑬ 4 名				
第 15 回	本授業の総括				
第 16 回	定期試験				
授業時間外の学習	予習：(1.5 時間程度) ① 次回の報告記事をポータルサイトに挙げるので、日本経済新聞のその箇所を必ず読んでおく。 ② はじめて見る単語の意味・概念を調べる。 復習：(1.5 時間程度) ① 授業を振り返って内容を整理する。 ② 理解できていない事柄を次の授業で的確に質問できるよう用意する。				
履修条件 受講のルール	日本経済新聞の記事を基にした授業が展開されるので、日本経済新聞を購入、あるいはコピーをして読んでいることが、本講義を受講する絶対の条件となる。				
テキスト	日本経済新聞				
参考文献・資料	さまざまなビジネス・経済専門誌				

成績評価の方法	3分の2以上の出席を前提に、授業内での指名発表時の理解度評価を含む平常点（45％）と、定期試験（55％）を総合して、最終的評価を下す。 また、欠席、遅刻、私語、居眠り、無断退出等については減点の対象とする。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 10：40～12：10 木曜日 10：40～12：10 事前連絡があれば、上記時間の他にも可能性あり。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	国内外の経済の動向に敏感になると、世の中のいろいろな姿が見えてきます。日本経済新聞を読む習慣をつけてください。また、新聞・雑誌以外のテレビ・ウェブなどのメディアにおいても、経済動向に敏感になってください。世界は経済を中心に回っていることが浮き彫りになります。